

巻末付録：震度階級別対応フローチャートについて

市町村における地震時応急対応実施状況を調査している際、防災担当職員から「いざ地震が起こったとき、これから何をすべきかが分からない」という声が聞かれていた。これを受けてこれまでの一連の研究を進めてきた結果、震度階級別の対応実施状況が明らかとなってきた。ここで得られた震度階級と対応実施状況との関係は、地震直後に気象庁が発表する震度情報に合わせてこれから何をしなければならいかの判断を行う際に有用な情報を提供するものと考えられる。そこで、“I. 2000 年鳥取県西部地震における市町村の応急対応とそのモデル化に関する研究”中の震度－実施対応項目モデルによる震度階級別フローチャートに、実施期間－対応程度モデルの対応程度の情報を加えた震度階級別フローチャートを作成した。平時からこれを壁などに貼っておけば職員の震度階級別の対応の流れの把握に役に立つかもしれないとの思いから、このうち震度 5 弱～7 までの震度階級別フローチャートのポスターを付録として添付した。これが地域の防災対応支援のために少しでも役立てば幸いである。

□図の表現について

図中の比較的大きな四角で表現されているのが対応の大項目であり、その中の小さい四角で表現されているのが個別対応項目である。個別対応項目の四角は実施確率及び実施程度によって色づけされている。各個別対応項目の外枠の色は実施が想定される確率を示しており、青が 25% 以下、緑が 25-50%、オレンジが 50-75%、赤で 75% 以上の確率を表している。つまり青に近いほど実施しない確率が高く、赤に近いほど実施する確率が高いことを意味している。塗りつぶしの色はその対応項目を実施した場合の対応の程度を示しており、実施期間－対応程度モデルで示した対応量が 0.1 以下なら青、0.1-0.3 なら緑、0.3-0.7 ならオレンジ、0.7 以上なら赤で示しており、赤に近いほど対応するための人的・物的資源が多く必要になることを意味している。白抜きになっている項目は対応程度を明示できなかったものである。矢印はおよその対応の順序を示しており、矢印のないものは特に実施の順序が明確でないものを示している。ここで示された対応の流れは震度－実施期間モデルによるものをおおむね踏襲しているが、厳密な時間推移までを表現するものではない。対応の基本的な流れは、まず被害調査を行い、被害の状況に合わせて人命・健康、避難所開設、復旧・給水、住家対応を実施する。その後半壊以上の被害がある場合もしくは重傷者がいる場合（避難者がいる場合というケースもある）等に助成をはじめとする生活再建支援策を実施するというようになっている。また、体制の確立に関わる対応については、対応全体（全時間点・全対応種別）に関わるものであるため別枠に示している。